

市民版

死後見つめ“終活”を 右京で講演

自分の最期や死後をテーマにした講演会が25日、京都市右京区の西寿寺であった。第一生命経済研究所(東京都)の小谷みどり主任研究員(43)が「終活のすすめ」と題し、終末期医療や葬儀、墓など考えておくべきことについて助言した。

NPO法人「自分で考えるラストセレモニーの会」(同区)が開き、約20人が参加した。

小谷さんは「東京に住む人の3割が葬式をしない」と紹介し、「価値観はさまざま。それぞれの問題として考える必要がある」と指摘した。引き継ぎ手がない「無縁墓」の増加にも触れ、「合葬など、従来とは違う墓の形も増えている」と説明した。

配偶者の死後、栄養失調になったり、通帳の位置が分からず困る人もいるとし、「自分の死にさま



「終活のすすめ」と題し、終末期医療や葬儀、墓のことなどについて講演する小谷さん
(京都市右京区・西寿寺)

を考えることは、周開や残された人のことを考えること。事前に相手の生活的自立を促したり、エンディングノートに必要なことを書き留めたりしておく必要がある」と話した。

(山田修裕)